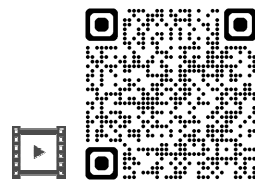


相対音感の鍛え方

音楽理論 T002



目的

曲のキーを変えて移調したり、メロディを耳コピーしたり、メロディにコードをつけるには音感をトレーニングして相対音感やハーモニー感覚を身につける必要があります。そんな音感エクササイズに効果を発揮する「路地裏式ディグリー・ネーム」を紹介します。

POINT

- オールド・ルーキーが才能の壁を越える方法論…
- それが路地裏式ディグリー・ネーム

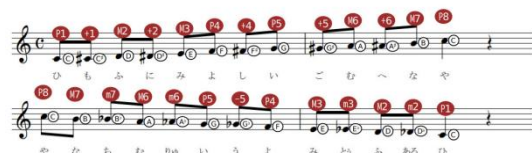
ギター初心者から脱け出そうとすると、曲のキーを変える移調やメロディの耳コピーをするには、相対音感を身につけておいた方がよかったことに気づくものです。相対音感とは音同士の相対的な距離を把握する音感のことです。

また「浮かんできたメロディに即興でコードをつけられたらいいのになあ…」と考えた経験があると思いますが、そのときに必要になるものがハーモニー感覚と呼ばれるコード・センスで、これも音感の一種と言えます。

路地裏式ディグリー・ネームは、そんな音感を鍛えるエクササイズのために工夫した路地裏ギタークラブの独自メソッドで(そんな大それたものではないのですが…)、とりわけ遅れて才能が開花するオールド・ルーキーのアナタに贈る方法論であります。



Track_T002a



Comment

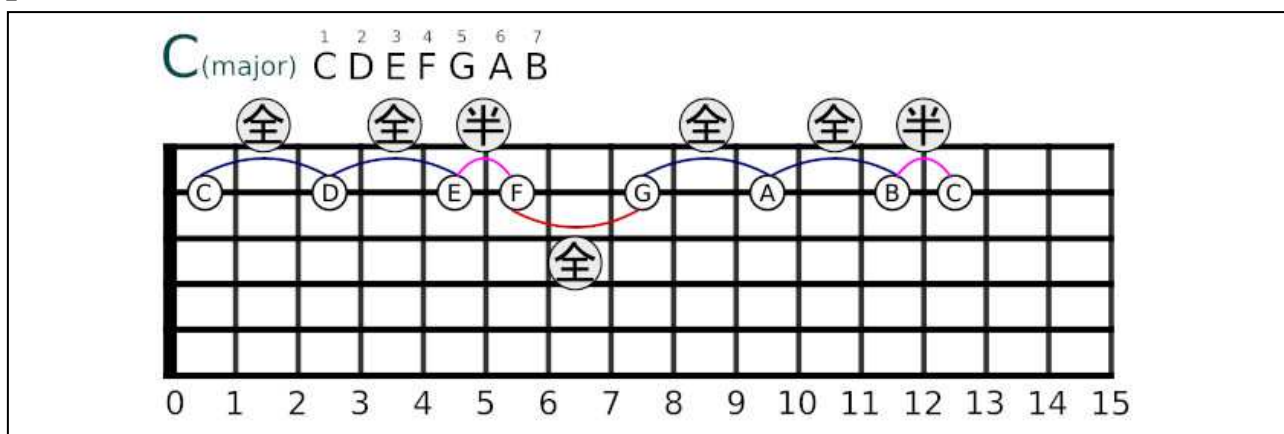
【 路地裏式ディグリー・ネームの基本原理 】

一般的によく知られているC・D・E・F・G・A・Bの七音から構成される音階はCメジャー・スケール(別名:Cイオニアン・スケール)と呼ばれています。これはドの音から始まる長音階で、下図のような[全-全-半]-全-[全-全-半]の音程間隔で構成されるスケールです。



Track_T002b

■ Cメジャー・スケール(別名:Cイオニアン・スケール)

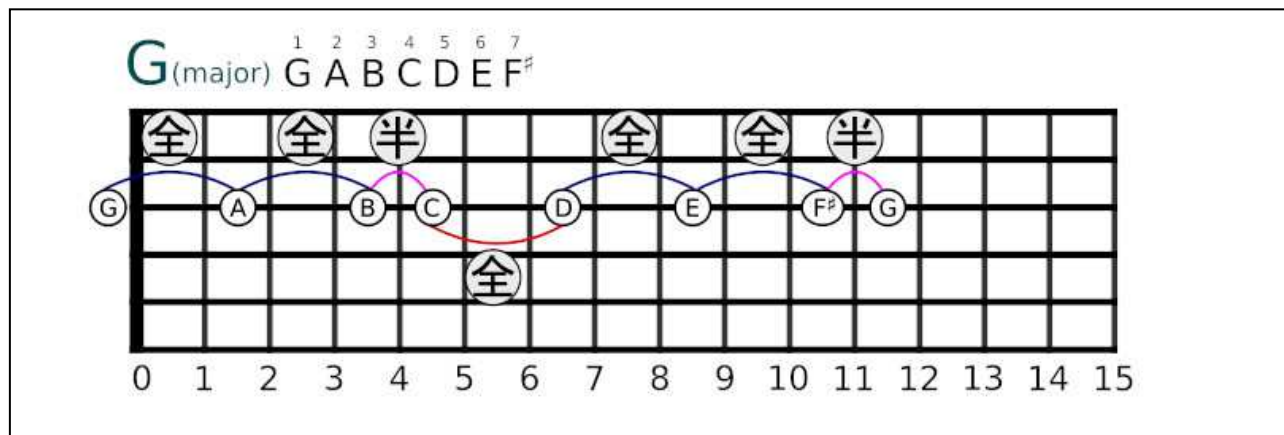
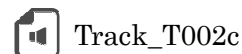


音程間隔は、Cを1度と数え、そこから全音上(2フレット上)のDを2度と数える“度数”で表すの

が慣例で、そこから全音上のEを3度、さらに半音上(1フレット上)のFを4度と数えて[全-全-半]の音程を表します。以下同様にGを5度、Aを6度、Bを7度と数えて、ドの音からの相対的な距離(音程)を把握するわけです。

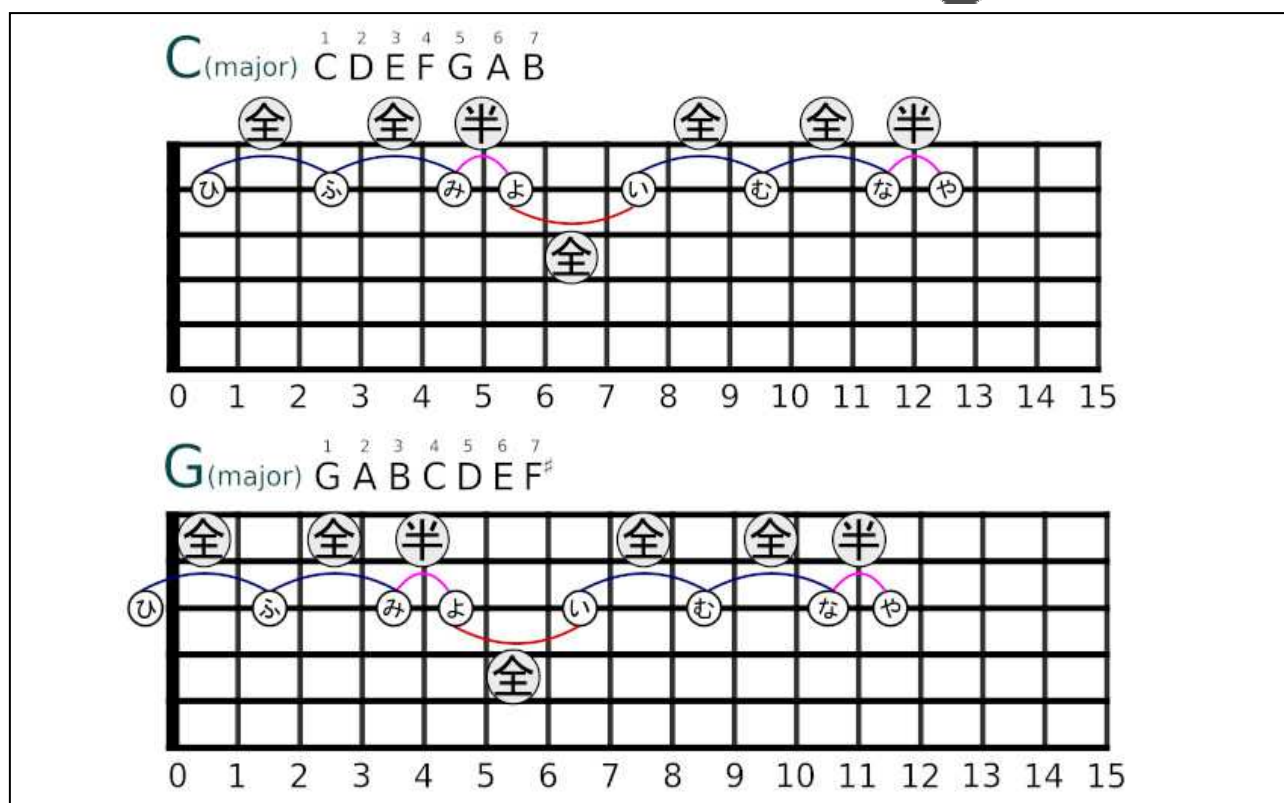
同じくGを1度としたときに、そこから[全-全-半]-全-[全-全-半]の音程間隔で構築されるスケールをGメジャー・スケール(別名:Gイオニアン・スケール)と呼びます。こちらも「G・A・B・C・D・E・F#」の各七音に1から7までの“度数”を当てて、ソの音からの相対的な距離(音程)を表します。

■ Gメジャー・スケール(別名:Gイオニアン・スケール)



CとGのどちらのスケールも[全-全-半]-全-[全-全-半]という同じ音程間隔ですから、1度から7度までの“度数”に呼び名をつければ、キーが違っていても同じようにメロディーを歌うことが可能になります。そこで“度数”に数詞をつけてみたのが路地裏式ディグリー・ネームの基本原理です。

■ 路地裏式ディグリー・ネームの基本原理



メロディを路地裏式ディグリー・ネームで歌うことに慣れてくると、絶対音感を持っていなくても、自分のイメージした音を自由に表現できるようになってきます。それは音同士の相対的な距離(音程)を把握する能力である“相対音感”が鍛えられるからです。路地裏式ディグリー・ネームはたとえるなら“音同士の相対的な距離を測るモノサシ”のようなもの。おかげで曲のキーを変える移調やメロディーの耳コピも格段に早くなるわけです。絶対音感と違って「相対音感」は鍛え方次第で年齢に関係なく身に

着けることができる」と言われていて、もしもアナタが、ギフトが遅れて開花するオールド・ルーキーだとするならば、これから才能の壁を越えるために必要不可欠な能力と言えるかもしれません。

Comment

【 路地裏式ディグリー・ネームの法則 】

路地裏式ディグリー・ネーム(Rojiura-style degree name)は「ひ・ふ・み・よ・い・む・な・や」という古い日本語の数え方を中心にして、＃(シャープ)系を現代日本語とギリシア語の数の数え方で、b(フラット)系は中国語とロシア語の数の数え方で度数を表す大陸横断的な方法論であります。

路地裏式ディグリー・ネーム(Rojiura-style degree name)

日希(＃)	+1 も	+2 に	+4 し	+5 ご	+6 へ			
和	P1 ひ	M2 ふ	M3 み	P4 よ	P5 い	M6 む	M7 な	P8 や
中露(ｂ)	m2 ある	m3 とう	-5 う	m6 りゅ	m7 ち			

＃(シャープ)系の度数は、日本語の「イチ・ニ・サン・シ・ゴ」の“に”・“し”・“ご”とギリシア語で1と6を意味する「mono(モノ)」と「hexa(ヘキサ)」の“も”・“へ”で数えます。

b(フラット)系の度数は、麻雀でおなじみの中国語の「イー・アル・サン・スー・ウー・リュウ・チー」を基本にして、3度の“サン”の読みだけをロシア語の「три(トゥリー)」の“とう”に置き換えてみました。“サン”という発音は音階を歌ってみたときに何だかしっくりこなかったからです。

Comment

【 参考：度数名の符丁一覧 】

度数の数え方には、喫茶店の店員同士がアイスコーヒーを「アイコ」と呼び合うような符丁(合言葉)があるので、知っておくとギターの教則本を読むときなどに役立ちます。ざっくり説明すると「1・4・5・8」は完全〇〇、「2・3・6・8」は長〇度、短〇度と呼ぶのがギター弾きの合言葉のようです。

耳学で自然に覚えてしまうものですから、後で確認するときのための参考として掲載しておきます。

P1	ひ	完全一度 (unison:ユニゾン) 1 R	-5	う	減5度 (diminished fifth) b5
+1	も	増1度 (augmented first)	P5	い	完全5度 (perfect fifth) 5
m2	ある	短2度 (minor second) b9	+5	ご	増5度 (augmented fifth) #5
M2	ふ	長2度 (major second) 2 9	m6	りゅ	短6度 (minor sixth) b13
+2	に	増2度 (augmented second) #9	M6	む	長6度 (major sixth)
m3	とう	短3度 (minor third) b3	+6	へ	増6度 (augmented sixth) 6 13
M3	み	長3度 (major third) 3 10	m7	ち	短7度 (minor seventh) b7
P4	よ	完全4度 (perfect fourth) 4 11	M7	な	長7度 (major seventh) 7 Δ7
+4	し	増4度 (augmented fourth) #11	P8	や	完全8度 (octave:オクターブ) 8